



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン：経済状況

(4月12日付イラン報道)

1. EU諸国へのイラン産原油輸出停止 (12日付イラン・ニュース紙)

イランは、EUによる対イラン制裁への対抗措置として、スペインへの原油輸出を停止した翌日、独国に対する輸出を停止した。イランは既に、英国、仏国、ギリシャに対して輸出を停止しており、現在は伊国への輸出停止を検討している（注：2011年のイラン産原油の輸入量は、スペイン：日量16.1万バレル、独国：日量1.5万バレル、英国：日量1.1万バレル、仏国：日量5.8万バレル、ギリシャ：日量10.3万バレル）。

2. 油濁保険に関する日本P&Iクラブの発表 (12日付イラン・ニュース紙)

イラン産原油積出船舶への油濁保険に関して、日本P&Iクラブは、7月1日以降、同クラブが単独で付保できる800万ドルを超える部分については、組合員である船会社が負担するよう求める内容の書面を公表した。これに関し、タンカー保有大手の商船三井や日本郵船は、イラン産原油の輸送は保険なしでは行えないと述べている。

3. 船舶保険に関する中国船会社社長の発言 (12日付テヘラン・タイムズ)

中国最大手の船会社であるCOSCO傘下の台連遠洋運輸社長は、イラン向け船舶に対し中国政府により保険付保が行われるであろうと述べた。「これは、中国政府が船舶保険会社を自ら保有する絶好の機会である。しかし、この案がいつ決まるのかは定かではない。現在中国政府の多くの部局で検討中である」と発言した。

4. インド系銀行によるイラン向け輸出の金融サービス継続 (12日付テヘラン・タイムズ)

インド系ヒンドウジャ銀行（スイス）は、支払い手続きが困難であるにもかかわらず、イラン向け食料輸出に関する金融サービス提供を継続している。同行頭取は、「我々が人道面で、食料や医薬品の供給に対し金融支援を行うことによって、イラン国民を支援することは光栄なことである。我々が扱う取引は金融監督側に対し事前承認を得る必要があるが、それは微々たる問題である。引き続き取引を法的に問題なく継続しており、米国人もこれを歓迎している」と述べた。

5. 金鉱床の発見 (12日付テヘラン・タイムズ)

イラン地質調査所（GSI）は、イラン西部コルデスターン（クルディスタン）州サッケズ市で新たに3つの金鉱床（合計埋蔵量16トン）を発見したと発表した。これにより、イランの金埋蔵量は320トンに達する。